

第10期

環境マネジメント交流会議

～環境保全を通じた「持続可能な社会」の実現と「経営」への貢献策を探求する交流討議～

開催趣旨

近年、地球規模での気候変動、温暖化などへの関心が高まり、世界中の企業でサステナビリティ:持続的成長に向けて「地球環境を考慮した経営」を重視する機運が高まっています。

こうした動きに呼応し、各企業は達成すべき環境目標を掲げ、調達・生産活動における資源の再利用と再生可能エネルギーの積極的活用、CO2削減、廃棄物ゼロへの取り組み、サプライチェーン全般において様々な環境負荷低減策を日々弛まなく実践しておりますが、更なる進化・深化にむけて、異業種企業間での知見交流と協調・連携が必要と言えます。

本交流会議は、環境マネジメントの問題・課題を異業種企業の環境部門:実務家が各業種・各社・各位の視点から新たな課題とその解決策を提起し合い、知見・ケースの交流討議を通じて課題解決への気付きと活力を共有していただくことを目的に開催し、第1期から第9期の活動にて異業種研究交流討議ならではの貴重な成果を残しております。

つきましては先期:第9期での成果を踏まえ、第10期での研究交流討議の進化・深化にむけて本交流会議の趣旨へのご賛同をいただける熱意ある環境部門:実務家各位のご参加をお待ちしております。

ご参加対象

本社、事業所、工場において環境マネジメントを通じて企業経営に資する意志と問題意識を持ち、研究交流討議、相互啓発に積極的なご参画をいただける皆さま。

第1回例会

3月15日(金) 13:00～18:00

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

富士通における気候変動に対する取り組み

～中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」における3つの柱を中心に～

① CO2 ゼロエミッションの実現 ② 脱炭素社会への貢献 ③ 気候変動への適応に貢献 など
— メンバーとの対話 —

◇ゲスト:富士通株式会社 環境・CSR 本部長 **金光 英之** 氏

1987年 富士通株式会社入社。半導体開発部門のエンジニアとして、ウェアプロセッサ用の技術開発に15年間従事。その後環境本部で、富士通グループ全社の工場、データセンターを含む施設の省エネなどの環境活動を推進。2008年～2012年に赴任しブリュッセルに駐在。EUの環境政策の調査及びロビー活動に従事。2013年に環境本部 グリーンマネジメント統括部長、2015年に同 グリーンビジネスイノベーション統括部長、2016年に環境本部長、2017年より環境・CSR 本部長(現在に至る)



◇オリエンテーション 14:40～ 分科会の進め方、課題交流、懇談会 18:00 終了

■「第1回例会」は正式入会をご検討中の方の「体験参加」が可能です。詳細は申し込みページをご参照下さい■

第2回例会

4月19日(金) 13:00～17:00

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

世界中の企業が自然エネルギー 100%を目指す時代

— CO2削減へ電力の新たな調達方法が広がる —

◇ゲスト:公益財団法人 **自然エネルギー財団** 自然エネルギービジネスグループ マネージャー **石田 雅也** 氏

◇14:40～17:00 テーマ別分科会

第3回例会

5月17日(金) 13:00～17:00

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

大和ハウスグループの“脱炭素社会”に向けた取り組み

— 自社活動と事業の両面から CO2 ゼロへ挑戦 —

◇ゲスト:大和ハウス工業 株式会社 環境部長 **小山 勝弘** 氏

◇14:40～17:00 テーマ別分科会 ◇交流会

第4回例会

6月14日(金) 13:00～17:00

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

TCFD シナリオ分析の要諦

最新事例分析を踏まえて考える、シナリオ分析の進め方

◇ゲスト:株式会社 **みずほ情報総研** 環境エネルギー第2部 シニアコンサルタント **柴田 昌彦** 氏

◇14:40～17:00 テーマ別分科会

第5回例会 7月5日(金)～6日(土)	【合宿研究会】 ※前半分科会活動の共有 ※分科会研究テーマに関する課題を持ち寄り徹底的に議論を重ね、対応策・提案事項の検討	
第一回例会	【見学例会】 7月下旬または10月上旬に開催予定。企業の工場・環境保全施設など。	
第一回例会 8月23日(金)	13:00～14:30 【全体会】—メンバー及びゲスト講演 分科会研究を支援するテーマを予定	14:40～17:00 【分科会】
第一回例会 9月20日(金)	13:00～14:30 【全体会】—メンバー及びゲスト講演 分科会研究を支援するテーマを予定	14:40～17:00 【分科会】
第9回例会 10月25日(金)	13:00～17:00 【分科会討議成果発表による全体共有】	17:10～18:45 【終了交流会】

開催時間：原則として13:00～17:00 都内の会議室(表参道:アイビーホール)にて開催(見学会・合宿研究会は除く)

▶ 交流会議の開催要領と基本的すすめ方

前半：【全体会】 13:00～14:30

■ 識者、先進企業事例に学ぶ環境・資源効率化

この分野に造詣の深い識者と環境経営先進企業の推進ご担当者、具体的展開と実践の苦心談、解決策を聞くとともに推進施策を学びます。




後半：【分科会】 14:40～17:00

■ 課題交流と課題解決のためのグループ研究

メンバーの問題意識、課題の集約化・重点化を図り、希望テーマに分かれて分科会(研究グループ)を編成。それぞれに成果をまとめ各期での共有財産としてメンバー企業各社の環境経営の現場で活かされています。



▶ 第10期での編成分科会：候補案・課題案(小項目は論点の例示です)

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 【TCFDへの対応】
・経営トップの理解と社内浸透 ・シナリオ分析 ■ 【「RE100」への参加・実現にむけた取り組み】
・水力、太陽光、風力、地熱、バイオマスの活用策 ■ 【2030年—2050年ビジョン策定】
・目標設定とロードマップ、推進への取り組み ■ 【気候変動の一部としての「水リスク」】
・渇水、洪水、水質汚染リスク等とレピュテーションリスク ■ 【資源・廃棄物：循環型社会への対応】
・サーキュラー・エコノミー(Circular Economy)の考察 ■ 【SBTの推進と温暖化の緩和と適応策】
・目標設定と具体的取り組み施策 ■ 【サプライチェーン全体を通じた環境負荷低減】
・サプライヤーを含めた目標・指標・手法の共有策 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 【環境情報開示と外部評価への対応】
・CDP/DJSIなどの外部調査にどう対応するか ■ 【環境教育と環境コミュニケーション・情報発信】
・環境ブランド力向上へのアウトター
・インナーコミュニケーション ■ 【自然資本・生物多様性の取り組みと推進】
・自然の恵みの評価と生物多様性を配慮した事業戦略 ■ 【海外現法の環境マネジメントと本社の支援・推進体制】
・グローバル環境マネジメントプログラムの策定と運用 ■ 【プラスチック課題への取り組み】
・海洋プラスチック削減への企業対応 ■ 【その他】
・トピックステーマ |
|---|--|

※ご希望人数により、第1希望から第2希望へのご変更のお願いを申し上げます。また、開催に至らない分科会もございます。予めご了承ください。

分科会活動・進行の例示	●Stage1 メンバー各社・各自の共通課題の抽出：4月・5月	●Stage2 研究課題とあるべき姿の重点化：6月・7月
	●Stage3 ケース交流、ベストプラクティスの分析：7月・8月・9月	●Stage4 討議活動の発表と共有：10月

▶ 交流会議の特徴

- 1 異業種交流を深めることにより業種・業界の壁を越えた新しい発想や手法を学ぶことができ、また、社外のネットワークを広げ**パーソナルバリュー**の向上が図れます。
- 2 環境経営の新しい流れや考え方、実践手法について、研究者・先進企業の事例研究により**最新の情報を収集**できます。
- 3 単なる情報交換だけでなく、その背景にある**実務に直結したノウハウの交換**が行えます。また、必要に応じメンバー企業間の資料交換も行います。
- 4 フォーマル活動に加えインフォーマル活動を随時行うことで、信頼関係による**“ここだけの話”的なディスカッション**が可能となります。

▶ 第10期 交流会議 実務家幹事と先期第9期でのメンバー構成

運営幹事体制：本交流会議の企画・運営へのご協力、アドバイスをいただきます。（順不同）※ご所属・お役職は2018年1月現在。

・AGC (株)	環境安全品質部 シニアマネージャー	宮崎 俊幸 氏
・三井化学 (株)	ESG 推進室 主席部員	高野 安広 氏
・NTT コミュニケーションズ (株)	総務部 CSR・環境保護推進室 担当課長	吉田 忠雄 氏
・アズビル (株)	環境推進部 課長代理	永山 綾子 氏

※上記の皆様のほか、第9期よりのご継続メンバーの方々にご依頼中です。

先期：第9期のご参加企業：22社40名：本社・事業所の環境経営推進・環境安全管理部門などの部課長及びスタッフの方々

- ・旭化成(株)
- ・AGC
- ・(株)カネカ
- ・(株)ノーリツ
- ・日本たばこ産業(株)
- ・大日本印刷(株)
- ・JSR(株)
- ・東京ガス(株)
- ・YKK(株)
- ・(株)竹中工務店
- ・オリンパス(株)
- ・アズビル(株)
- ・ナブテスコ(株)
- ・シチズン時計(株)
- ・ヤマハ(株)
- ・パナソニック(株)
- ・理想科学工業(株)
- ・富士ゼロックス(株)
- ・グローリー(株)
- ・三井化学(株)
- ・(株)LIXIL
- ・NTTコミュニケーションズ(株)

第9期メンバーの声 (抜粋)

《全体会について》

- ※最先端の取り組みをしている各企業から話を聞くことができ良かった。
- ※環境優良企業事例が多数紹介されて大変参考になった。
- ※現在話題になっているプレゼンがあり、参考になった。
- ※環境先進企業の事例を紹介していただき、情報収集の場として活用できました。

《分科会について》

- ※毎回の分科会でメンバーとディスカッションを通じて内容を深めることができ良かった。
- ※とても仲良くなり、今後のご相談も出来そうな関係が築けました。
- ※メンバーの皆さんが大変知識もあり勉強になりました。ネットワークが広がるのが良いですね。
- ※お互いの悩み相談も含め議論ができ、業務に直結した情報を得ることができました。
- ※各社のいろいろな意見を聞いたことは大いに参考になった。またメンバーが非常に知見を培っており大きな刺激を得ることができた。
- ※各社とも同様の課題をかかえていることが理解できました。

《先期：第9期 全体会 活動経過》

第1回：3月	【住友化学のサステナビリティへの取り組みと気候変動問題への対応】 レスポンシブルケア部 気候変動対応 担当部長
第2回：4月	【日立グループ環境長期目標「日立環境イノベーション 2050」～「低炭素社会」の実現に向けて～】 CSR・環境戦略本部 企画部 部長代理
第3回：5月	【ナブテスコ株式会社における SBT、CDP、CDP Water への取り組み】 ものづくり革新推進室 環境安全部 参事
第4回：6月	【倫理としての CSR から戦略としての ESG へ】 株式会社 大和総研 調査本部 主席研究員
第5回：7月	合宿研究会 分科会活動（集中討議）
第6回：7月	見学会 株式会社 リコー 環境事業開発センター（静岡県：御殿場市）
第6回：8月	【SOMPOホールディングスグループのCSRマネジメント ～ステークホルダーエンゲージメントとSDGsへの取り組み～】 SOMPO ホールディングス(株)・損害保険ジャパン日本興亜(株) CSR 室
第7回：9月	【新日鐵住金における環境の取組 ～自然資本を中心として～】 新日鐵住金株式会社 環境部 環境リレーション室長
第8回：10月	【分科会研究発表】

《第9期での開催分科会》

- 中長期環境ビジョン・海外現法環境マネジメント・水リスク
- 環境情報開示と外部評価への対応（データ収集・情報開示）
- 環境情報開示と外部評価への対応（投資家対策）
- 再生可能エネルギー導入・利用拡大の同行
- 環境教育と環境コミュニケーション・情報発信

0. テーマ選定理由

主な外部評価(環境関連格付・INDEX等)対応状況
(○=対応/対象/選定、×=非対応/非対象/非選定)

外部評価	CDP	DJSI	環境格付	FTSE	MSCI
CDP	○	○	○	○	○
DJSI	○	○	○	○	○
環境格付	○	○	○	○	○
FTSE	○	○	○	○	○
MSCI	○	○	○	○	○

まとめ

中長期ビジョン	海外現法管理
社内を牽引するために、中長期ビジョンの必要性をどう語るか? 実施段階で実効性を高めるには、どのような策定プロセスとするのがよいのか?	効率的な管理のために、法人属性等に応じてどのように管理レベルをかけるか? 特に懸念事項であるコンプライアンス担保について、どのような取組みが効果的か?

本交流会での知見を用い、自社活動の改善につなげる

2. TCFDとその提言とは

TCFDで求められる情報開示

【開示事項1】企業の気候変動関連のリスクと機会とその財務インパクトの情報開示

情報開示 → 移行リスク → 物理リスク → 機会

移行リスク: 低炭素経済への移行、政策・規制・技術・市場・評判
物理リスク: 気象等の影響
機会: 資源利用効率・エネルギー源・市場・製品/サービス・協働性

TCFDの枠組み: 情報開示 → 移行リスク → 物理リスク → 機会 → 財務インパクト

TCFDの要素: 情報開示、移行リスク、物理リスク、機会、財務インパクト

3-1. 中国の動向 (1/2)

のエネルギー・環境事情の変化
四半世紀に大きな経済発展(GDP26倍: 1990-2014) → 2013年、近年は顕著な消費量5,666TWh(2014年度)発電主体は石炭火力(電源構成内産電-安定供給に貢献)

目標: 2030年(2014年度) 2050年(2014年度) 2060年(2014年度)

2030年(2014年度) 2050年(2014年度) 2060年(2014年度)

2030年(2014年度) 2050年(2014年度) 2060年(2014年度)

第13次5カ年計画のエネルギー政策

基本方針:

- エネルギー安全保障の確保
- エネルギー効率の向上
- エネルギーの環境性能の向上
- エネルギーの普及とエネルギーの発展

教育及びコミュのモデル: 状況及び問題点

持続的発展

情報発信 インパクト

環境コミュニケーション 積極的発信

経営者

従業員

利害関係者

価値創造

環境教育

企業理念、思い、方向性

企業価値の向上

企業活動の思いの裏

環境教育

環境教育

環境教育

▶ 参加要項

■ 参加費: 一社より2名様(主・副メンバー)のご参加が可能です。※消費税含む

正会員	216,000円 (本体: 200,000円)	一般	237,600円 (本体: 220,000円)
-----	--------------------------------	----	--------------------------------

※上記料金は資料代・通信費などを含んでおります。

※合宿研究会参加費(29,000円ほど: 税別)は、ご参加の際、正・副メンバーごとに別途ご予定ください。

※参加費の分割お支払いも可能です。ご請求品目等についてなどお気軽にご相談下さい。

■ 申込方法: 下記申込書に所定事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにて下記担当宛にご送信ください。

企業研究会 →

《Top》⇒《異業種研究交流会》⇒《交流会一覧》
⇒《2. 経営戦略・企画》内: 本交流会ページからもお申込みいただけます。

〒102-0083 千代田区 麹町5-7-2 MFPR麹町ビル 2階 <http://www.bri.or.jp>

一般社団法人 企業研究会 事業開発グループ 担当: 早瀬

電話: 03-5215-3513 FAX: 03-5215-0951 E-mail: hayakan@bri.or.jp (早瀬)

※お申し込みの後、第1回例会通知(含む会場略図・関連フォームなど)をE-mailにて送信いたします。

年会費ご請求書は後日郵送致します。ご不明な点は早瀬宛にお問い合わせください。

体験参加につきまして: 第1回例会3/15は、正式入会をご検討中の方に交流会議の雰囲気をご覧頂く「体験参加」が可能です。

※費用無料・要: 事前予約。ご希望の方は、下記枠内にチェックを頂き、必要事項をご記入の上、FAX・E-mailにてご送信ください。

折り返し、「第1回例会: 体験参加通知」をE-mailにてご案内致します。

■ 第10期 環境マネジメント交流会議 申込書 ■ [事業コード: 180121] [区分] 正会員/一般

本交流会議の趣旨に賛同し、正式に参加を申し込みます。

参加を検討中につき、第1回例会の体験参加を希望します。

※左記枠内にチェックをお願い致します。

会社名	会社所在地 〒 _____		
主登録 (フリガナ) 氏名	部課・役職名	TEL: () () ()	FAX: () () ()
副登録 (フリガナ) 氏名	部課・役職名	TEL: () () ()	FAX: () () ()
E-mail: _____			
その他(備考) 所属の住所が正登録、副登録者の住所が異なる場合はお知らせください。			

※副登録者は主登録者と共に常時例会に参加いただける方です。特におられない場合は、空欄でも結構です。

※お客様の個人情報は、本交流会議に関する確認・連絡および当会主催のご案内等をお送りする際に利用させていただきます。